



フェリスナビダ &
ティーパーティ
チャスカ&BBNと
歌って踊ろう

森のホールが変身

みんなで踊ったあとは
パーティー会場に



12月17日、恒例のフレンズクリスマスコンサートが、文化の家森のホールで開催されました。今年は、1階中央部のすべての客席をなくして平土間にできるという、森のホールの特徴を生かし、馬蹄型の客席がステージを囲むように会場が作られ、初めて見た観客を驚かせました。



オープニングは「蝶々」

第一部ではまずチャスカが祭りの曲「蝶々」を(ケーナ)(チャランゴ)(ポンボ)(サンポーニャ)など の楽器で演奏。BBNは男性が悪魔のような衣装、女性は伝統的でカラフルな衣装を着けて登場し、陽気なダンスが華やかに始まりました。



ポンボ



チャランゴ



ケーナ



交流会の
フィナーレ



サンポーニャ

おなじみの曲「コンドルは飛んでいく」「アンデスの風になりたい」の演奏で、心はアンデスの大地と風に誘われ、地球の反対側に飛んでいきました。

今年は岡崎市、春日井市、尾張旭市など、遠方からのお客様が目立ちました。

★すばらしくてアンデスに行つたつもりになりました。

★日常生活を忘れ、癒されました。

★会場が良かつた。こういうこともできるんですね。



観客も一緒に踊った「花祭り」

特に存在感があったのは葦を束ねたサンポーニャという楽器で、長いものでは、小柄な演奏者の身長の三分の一ほどになり、その太い響きがケーナの響きと重なると哀愁を感じさせます。

第二部の交流会では、珍しい楽器の話、ボリビアの話、手作りの可愛いドレスの話など、軽食をとりながら談笑し、最後はチャスカの伴奏でクリスマスソングを2曲合唱して、フレンズの集いは終了しました。

「ビジアンシーコ(ボリビアのクリスマス曲)」「コーヒールンバ」などと続き、最後の「花祭り」では、観客も平土間に降り、BBNと一緒に輪になって踊りました。